

健常人における IFN- α 産生能と加齢の影響

Ageing Effects On Human Type I IFN System In Healthy Subjects

宇野賀津子、八木克巳、谷川真理、吉川敏一、藤田哲也..... 1

「今、再び」インフルエンザにインターフェロン

The preventive effect of human interferon-alpha on influenza infection;
Modification of clinical manifestations of influenza in children in a closed community

宇野賀津子..... 5

インターフェロン- γ 産生能測定のための

ELISA 法、BioPlex 法によるインターフェロン- γ 量測定の比較検討

Comparing ELISA and Bio-Plex method of quantifying IFN- γ production

村田圭一郎、宇野賀津子..... 10

健常者の免疫機能に対する Lactobacillus pentosus S-PT84 株摂取の効果

Effect of lactobacillus pentosus S-PT84 intake on immune function in healthy volunteer

出雲貴幸、井田正幸、前川敏宏、岸惇子、赤谷薫、北川義徳、吉川敏一、木曾良信..... 13

顔面神経切断と一過性前脳虚血後の Iba1 と NG2 の発現についての比較検討

Comparative study of alterations of Iba1 and NG2 expressions in axotomized facial nucleus and transient global ischemia

安田あう子、下田泰治、宇野賀津子、立石成人、古谷誠一、藤田哲也..... 19

脳障害とサイトカイン

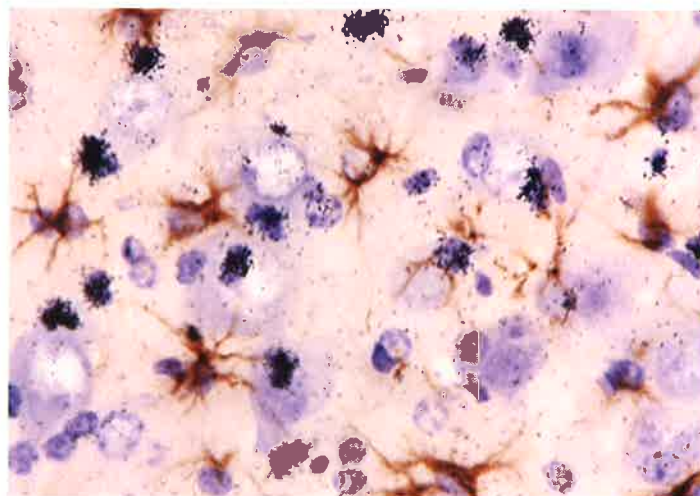
Brain injury and cytokines

安田あう子、下田泰治、宇野賀津子、土橋康成、立石成人、古谷誠一、藤田哲也..... 29

あなたと隣の HIV

HIV in our community

宇野賀津子..... 42



表紙説明：

脳の障害に対して最初に増殖で反応するのはミクログリアである

マウスの顔面神経を切断すると、顔面神経核にある起始細胞（ニューロン）には逆行性変性が起こり、胞体の膨化や細胞核の偏在、リボソーム凝集塊（ニッスル物質）の分散、などで特徴づけられる特有の変化（軸索反応という）が見られる。しかし、ニューロン変化の影に隠れて、これまで見逃されることが多かったが、注目すべきはグリア細胞の変化である。このオートラジオグラフは、神経切断直後から、軸索反応がほぼ完全に収まる12日後まで連日トリチウムチミジンを注射し、この間DNA合成で反応した全ての細胞核を（銀粒子で黒く）標識したものである。殆ど全てのミクログリアの核が標識されている。しかし、抗GFAP抗体で茶色に染色されたアストロサイトには標識されたものは殆どみられない。中央に、一個だけトリチウムチミジンで標識されたアストロサイトらしいものがみられるが、これはピントを合わせなおしてみると上に重なったミクログリアの核の標識であることがわかった。つまり、この間、アストロサイトやオリゴデンドロサイトは殆ど全く増殖せず、増殖で反応したのはミクログリアだけだった、ということなのである。じつは、顔面神経核のみならず、中枢神経系のいたるところで、障害に対して最初（1ないし3日の間）に、増殖で反応するのは例外なく（NG2細胞を含む）ミクログリアであり、他のマクログリアは驚くほど増殖反応性に乏しいことが分かったのである。